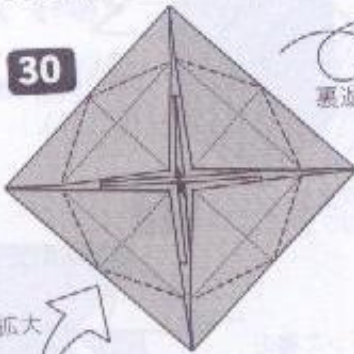
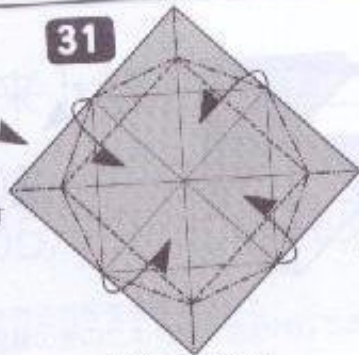
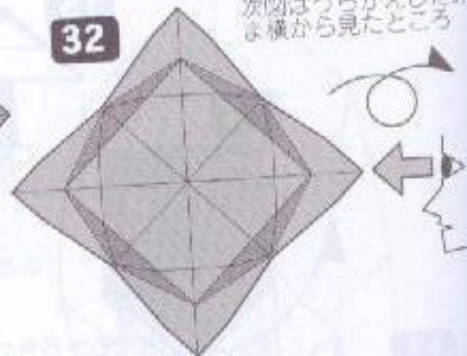
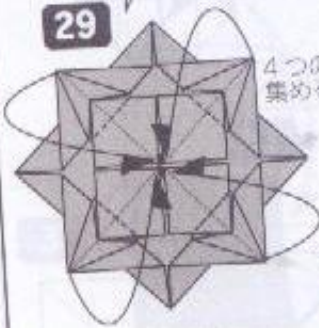
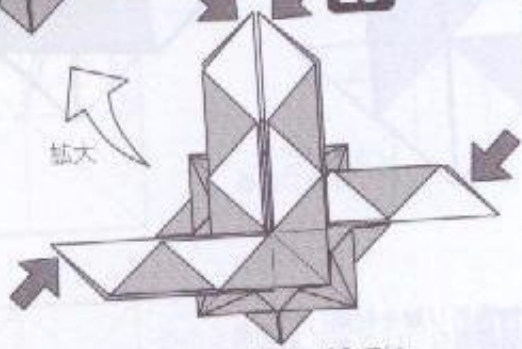
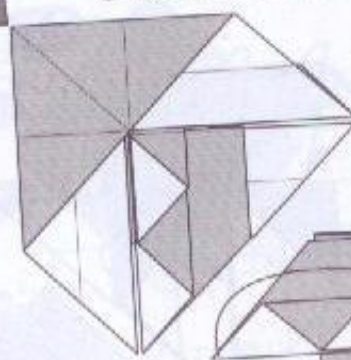
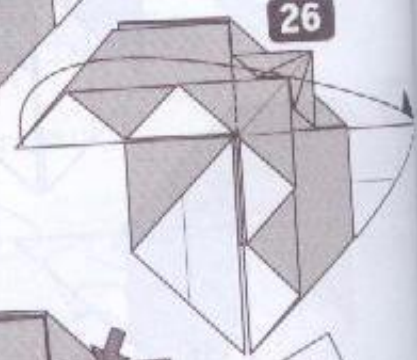
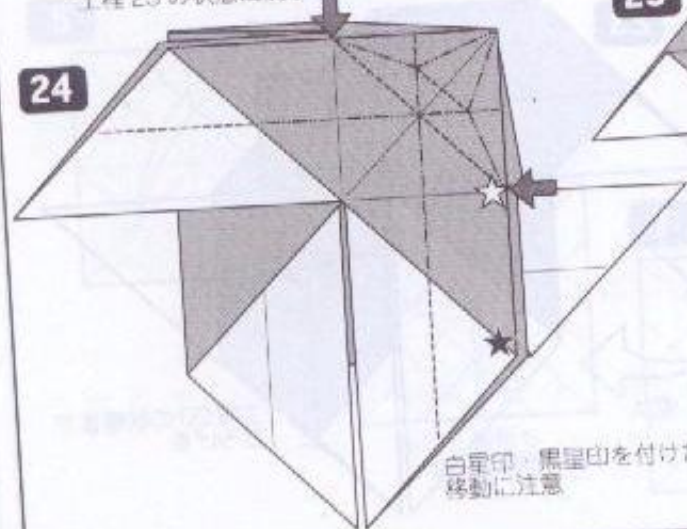
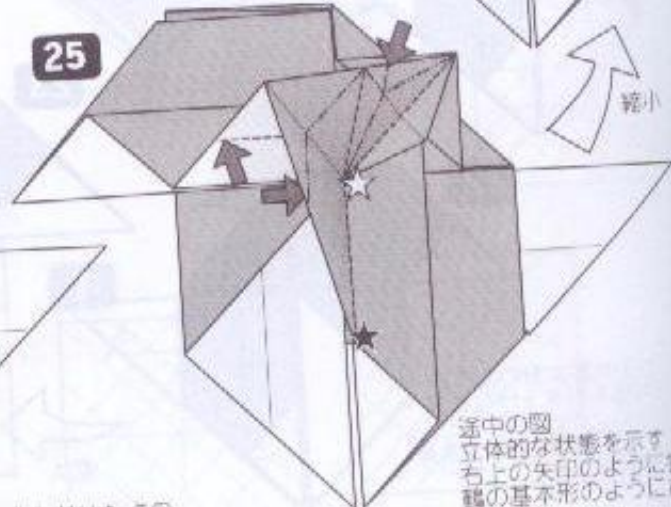
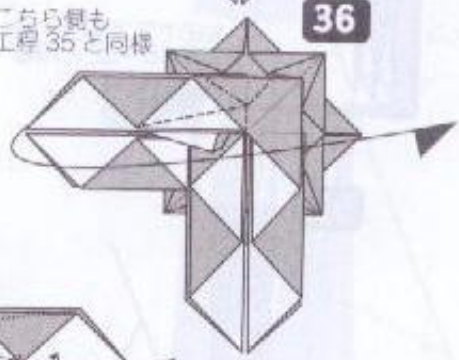
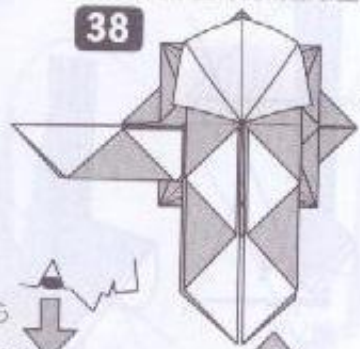
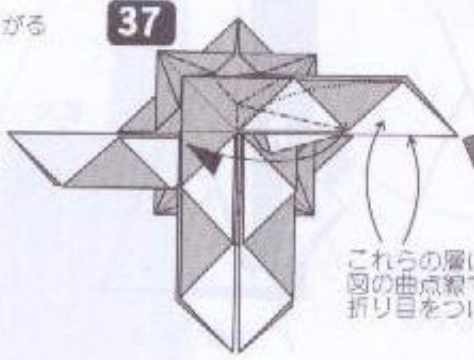
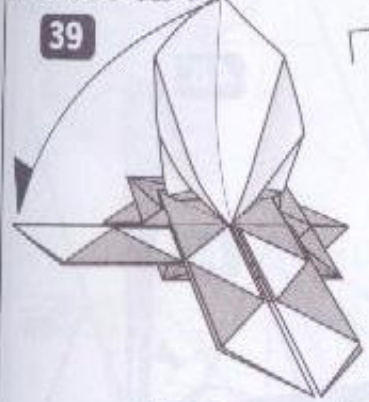
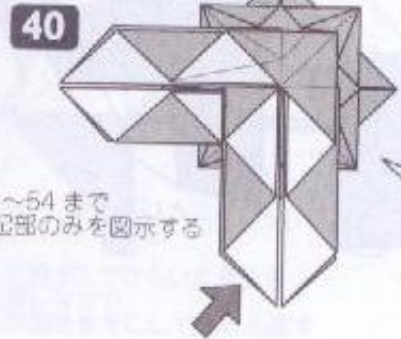
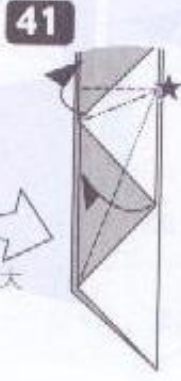
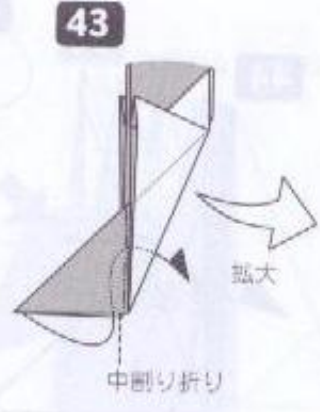
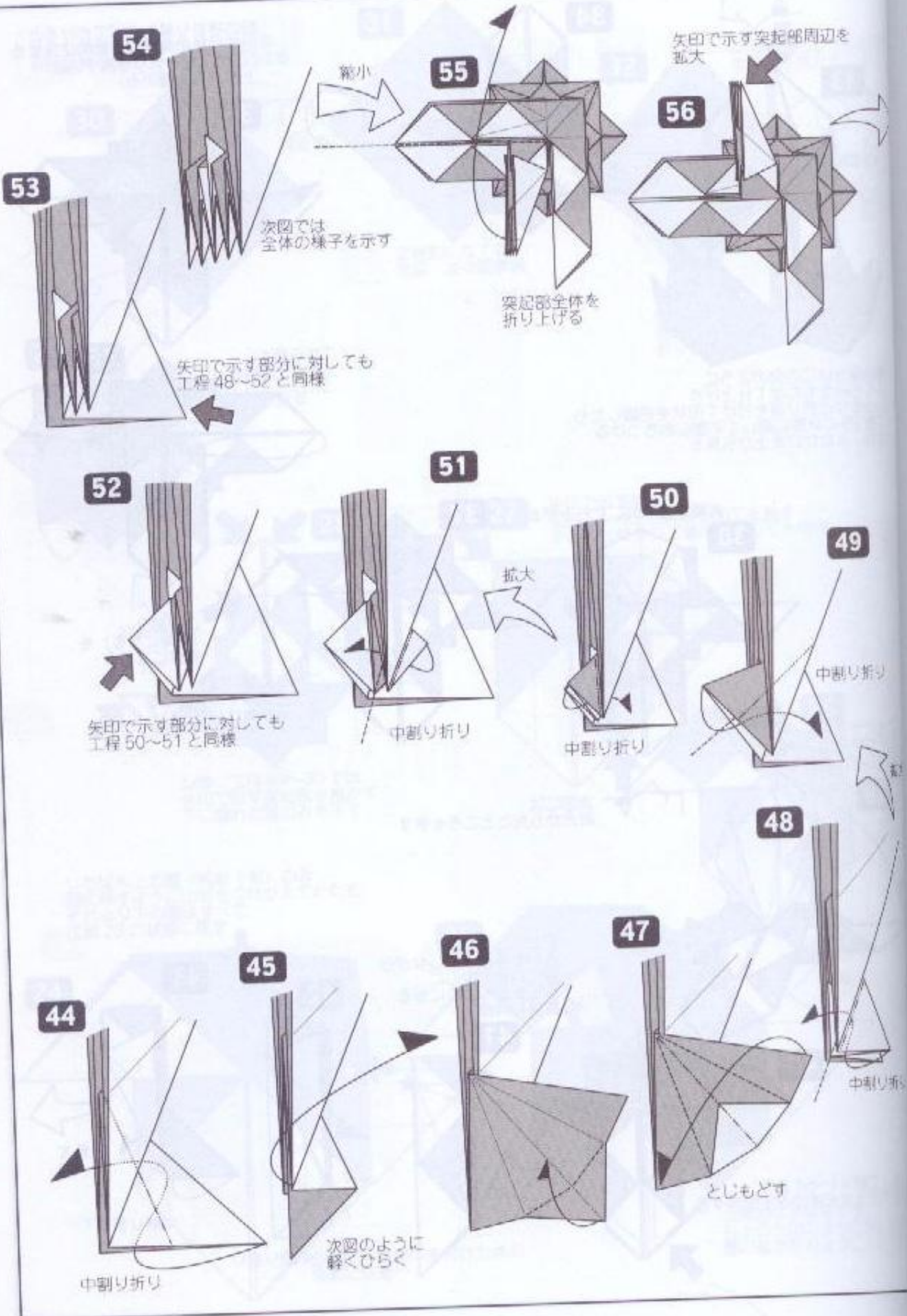
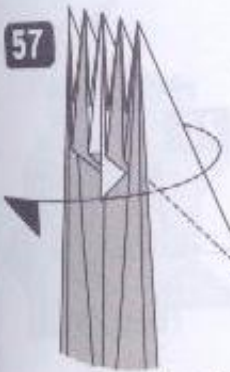
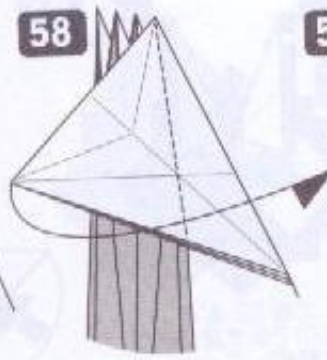
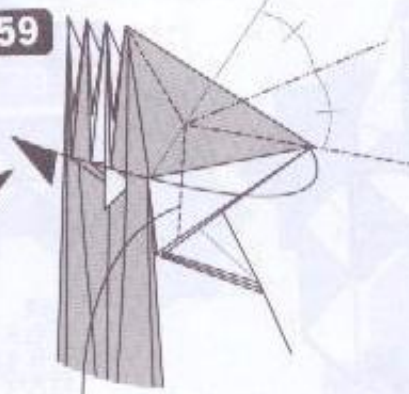
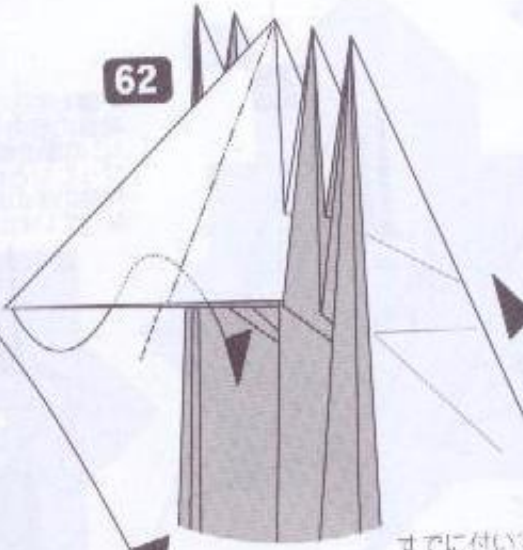
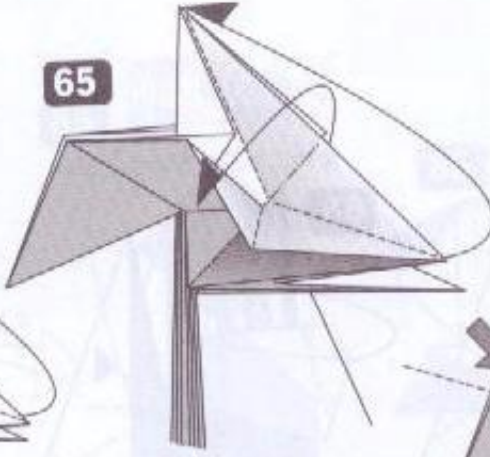
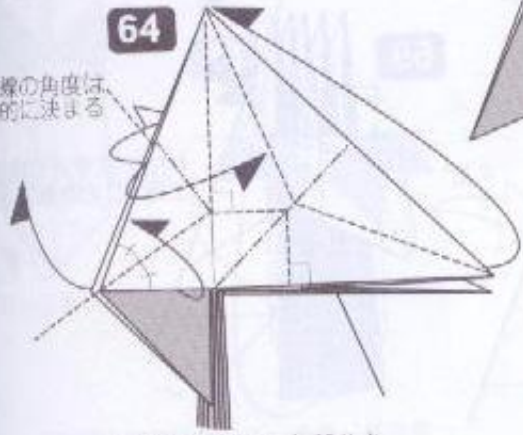
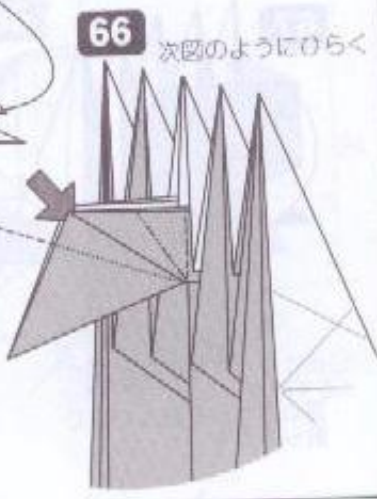
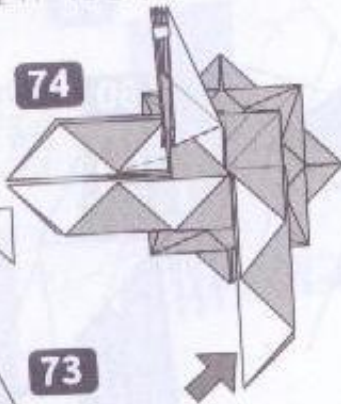
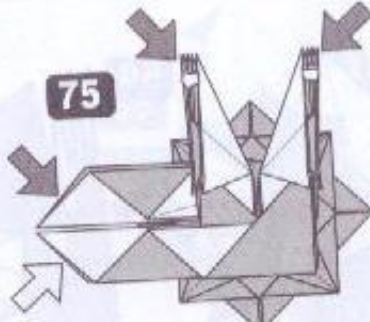
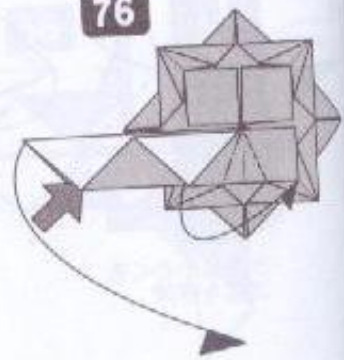
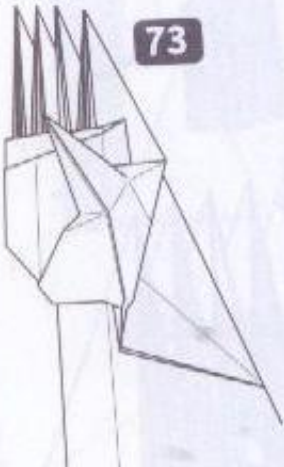
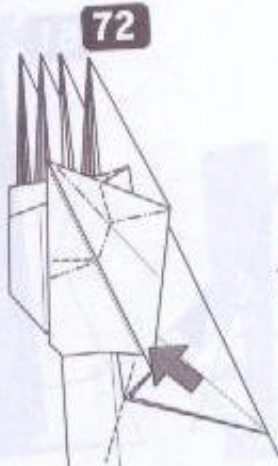
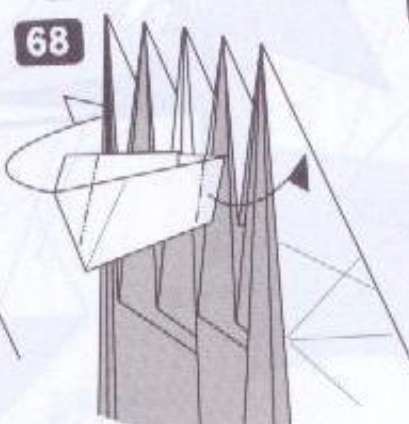
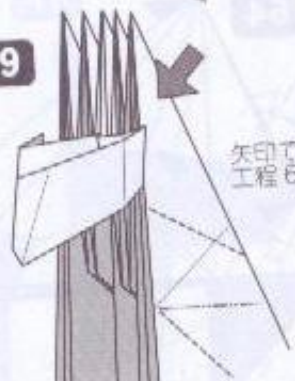
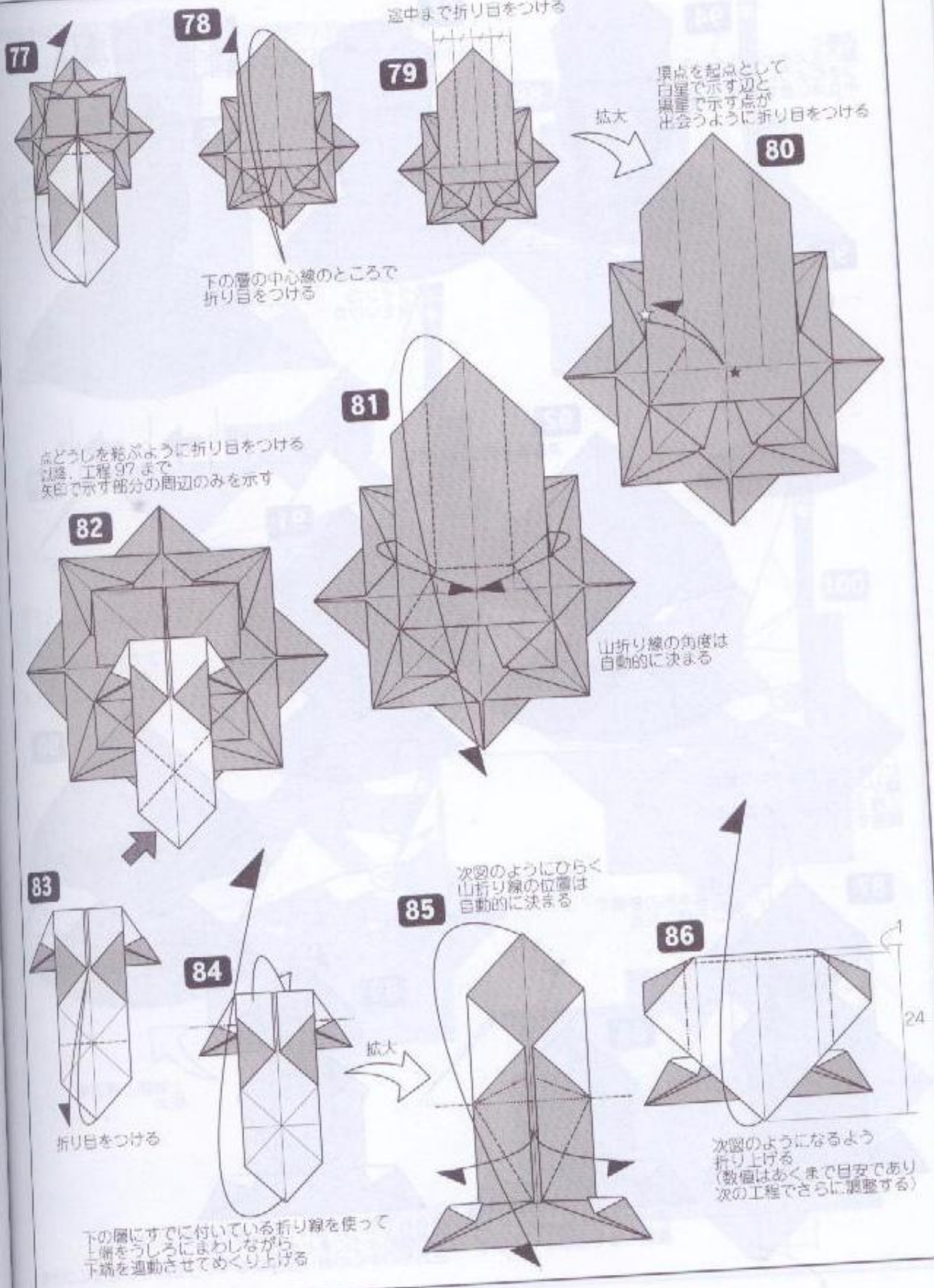
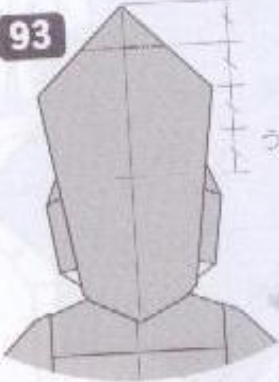
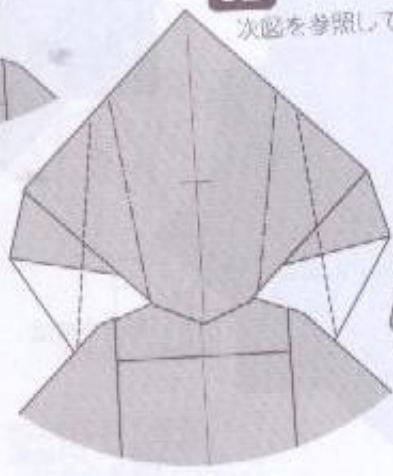
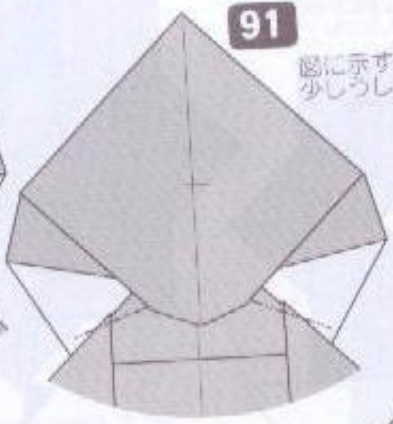
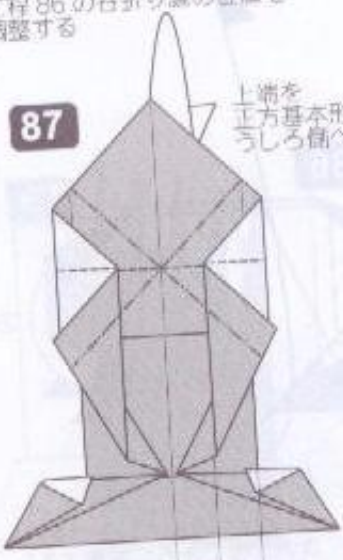
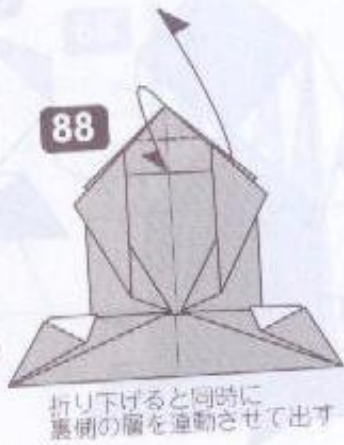
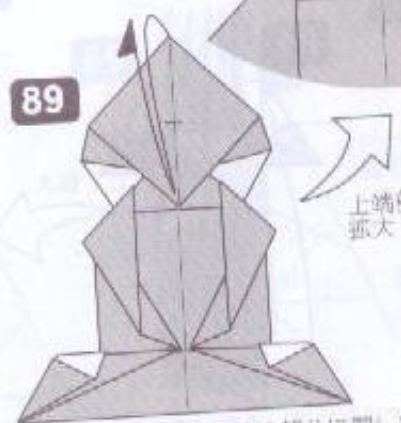
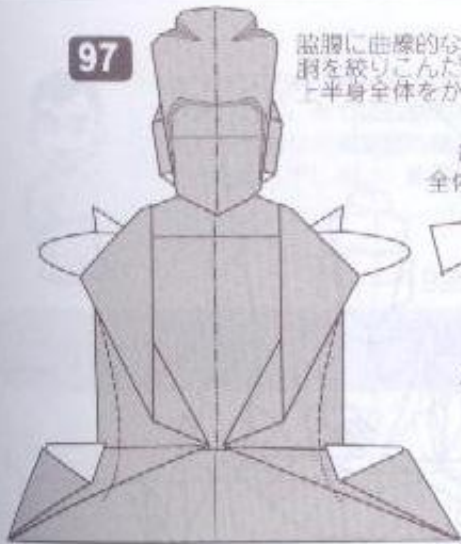
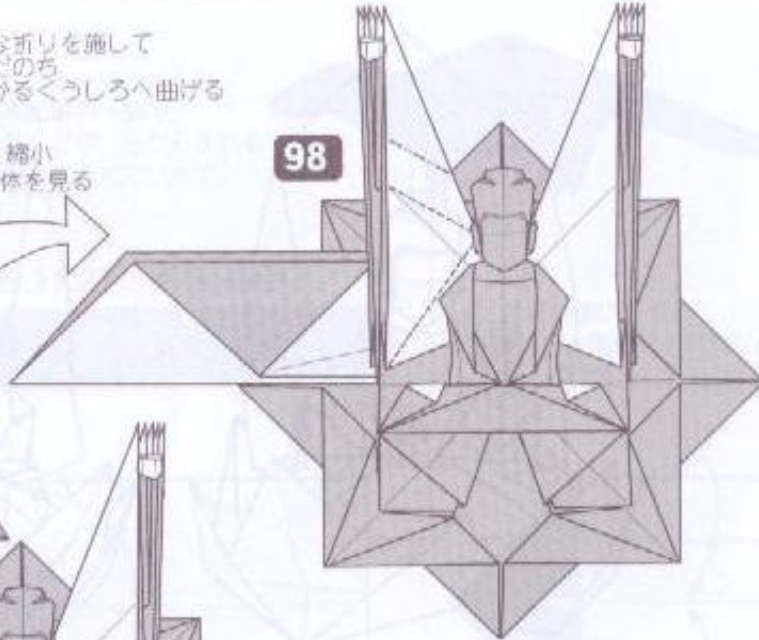
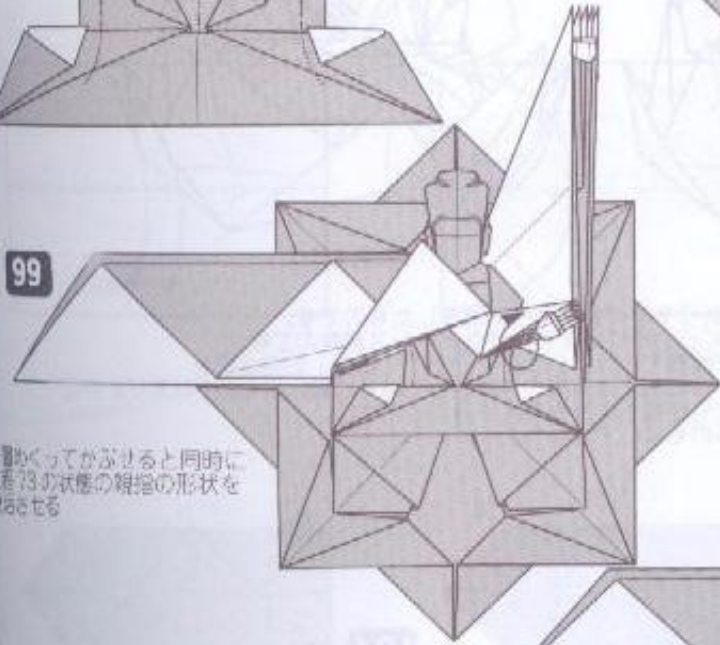
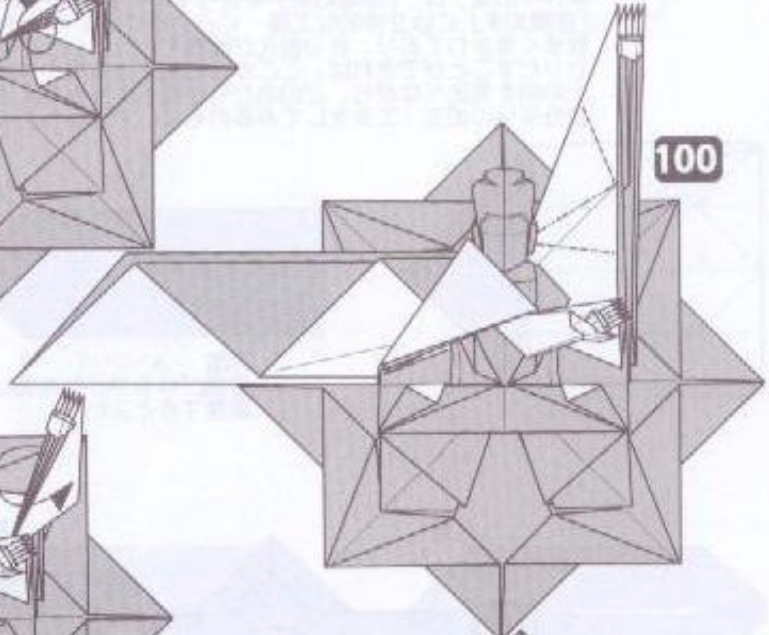
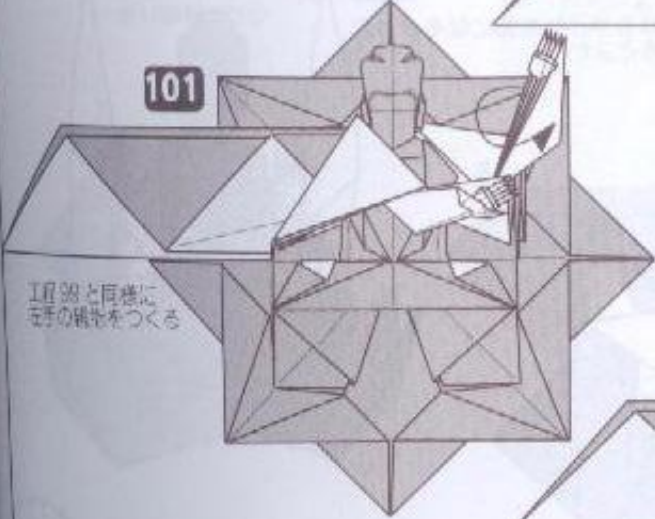
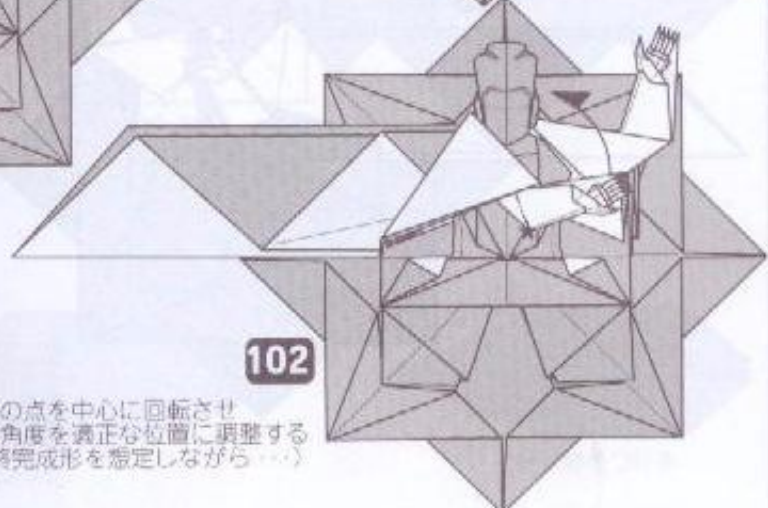
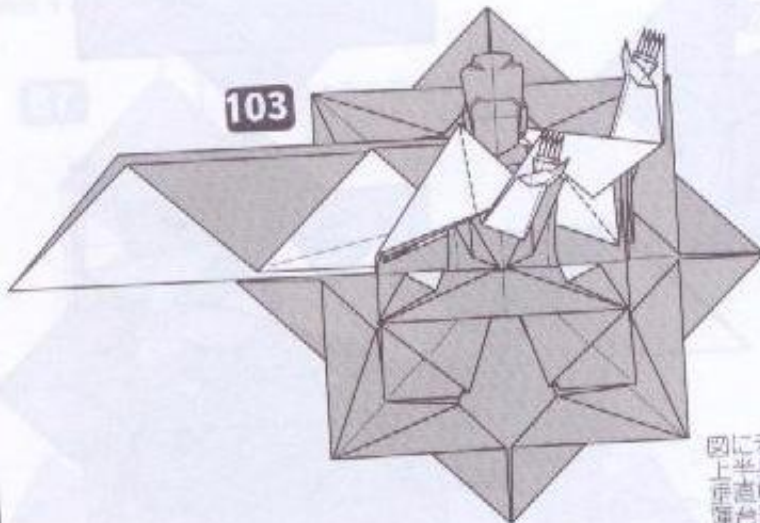
仏像 Buddha
(「空間如来」簡易版)
創作 1996/09
作図 2000/05/29
Takashi Hojyo
北條高史
表裏同色の正方形を使用すること
図では理解の便のため表裏を色分けしてある
1
工程 1〜8 で
基本的な折り線をつける
裏返す
2
3
4
他の 3 箇所も
工程 3 と同様
5
6
他の 3 箇所も
工程 5 と同様
7
8
9
拡大
45°
10
なかわり折り
11
他の 3 箇所も
工程 10 と同様
12

15
裏返す
16
こちら側も
工程 14 と同様
14
左右から合わせるように
つまんで折り上げる
13
あかわり折り的に
折り下げる
17
重なった層の
まんなかからひらいて
折り下げる
18
裏返す
19
拡大
しっかりと
折り目をつける
20
すでに付いている折り線を利用して
上側の層（用紙の重なりは 2 枚）のみ
正方基本形のようにたたむ
下側の層（これも用紙の重なりは 2 枚）は
工程 19 の線で折るだけ
21
途中の図
23
22
工程 20 で正方基本形のように
たたんだ内部を引き上げながら
鶴の基本形のように折る
（折り線の位置は自動的に決まる）
次の図を参照のこと
拡大
工程 20 の状態まで
ひろげる

30
つまむようにして折り目をつける
余計な折り線をつけないように注意
31
裏返す
立体的に立てる
次図・次々図参照
32
次図はうらがえしたの
を横から見たところ
途中の図
色の濃い部分が
垂直に立つところまで
折り上げる
拡大
29
4つのカドを中央に
集めるように折る
28
27
矢印で示す部分に
工程 19~25 と同様の加工を施す
そののち残りの2箇所についても同様
拡大
以降、工程 29~30 では
矢印で示す突起部を除かず
下に隠れた層のみを示す
26
いちばん上の層（用紙1枚）のみ
図に示すように山谷をつけかえてたたむ
それより下の層はすべて
工程 23 の状態に戻す
25
縮小
24
白星印・黒星印を付けた点の
移動に注意
途中の図
立体的な状態を示す
右上の矢印のように
鶴の基本形のように

33
34
180°
図の谷折り線をすべて付けると
山折り線の角度が自動的に決まる
（この工程で折りを施すのは
上の2枚の層のみ）
35
こちら側も
工程35と同様
36
蓮台部分はこの図のように
ふくらみをもたせて仕上げる
しっかりと折り目を付けて形状を把握したら、
工程28の状態に戻して平面におちつける
次図、ふたたび真上から見る
光背が立体的に立ち上がる
38
37
この部分
（光背になる）を
垂直に立てる
これらの層には
図の曲点線で示すような
折り目をつけながらひらく
ここまでできたら
ふたたび平面に
たたみもどしておく
39
次図には
前方から見たところを示す
辺どうしを
合わせるようにしながら
星印の点を中心に
回転させるように折る
裏側も同様
42
43
41
40
以降、工程41～54まで
矢印で示す突起部のみを図示する
拡大
中割り折り
拡大
中割り折り

54
縮小
55
矢印で示す突起部周辺を
拡大
56
53
次図では
全体の様子を示す
突起部全体を
折り上げる
矢印で示す部分に対しても
工程48~52と同様
51
52
50
49
拡大
中割り折り
矢印で示す部分に対しても
工程50~51と同様
中割り折り
中割り折り
48
47
46
45
44
中割り折り
とじもどす
次図のように
解くひらく
中割り折り

57
3層目でめくる
次図を参照
58
59
この線の角度は
自動的に決まる
60
折り目を
しっかり付けたら
工程 57 の状態に
もどしておく
拡大
61
次図のように
引き出す
62
すでに付いている線で
中割り折り
63
ななめに
折り下ろしながらひらく
裏側も同様
64
この線の角度は
自動的に決まる
工程 63 でひらいた部分を
戻しながら
次図を参考にしてまとめ直す
65
途中の図
66
次図のようにひらく

矢印で示す部分に対しても
工程 41~73 と同様に対称の加工を施す
74
75
76
次図のようにひらく
縮小
以降、工程 82 まで
灰色矢印で示す突起部の
存在を無視して
白矢印で示す部分周辺の
加工のみを示す
73
72
71
一層めくって反対側へかぶせることにより
親指の筋肉を表現する
(この層の根元のほうが甚部と干渉して
ぴったりとは折れずねじれた状態になるが
先端の手の周辺のみ次図のように
なっていればよい)
70
ここまでできたら
工程 69 の状態まで
もどしておく
次図で全体を見る
図の折り線を参考にして
親指らしく加工する
矢印部分を押しつぶして
なめらかにする
角度を二等分するように
内側へ押し込む
全体にかぶせるように折る
69
67
68
矢印で示すカド周辺を
工程 60 の状態に戻す
頂点どうしを結んだ線で
折り下ろす

77
78
途中まで折り目をつける
79
拡大
頂点を起点として
白星で示す辺と
黒星で示す点が
出会うように折り目をつける
80
下の層の中心線のところで
折り目をつける
81
点どうしを結ぶように折り目をつける
以降、工程97まで
矢印で示す部分の周辺のみを示す
82
山折り線の角度は
自動的に決まる
83
折り目をつける
84
拡大
下の層にすでに付いている折り線を使って
上端をうしろにまわしながら
下端を連動させてめくり上げる
次図のようにひらく
山折り線の位置は
自動的に決まる
85
86
24
1
次図のようになるよう
折り上げる
(数値はあくまで目安であり
次の工程でさらに調整する)

94
肉髻と
髪の生えぎわのラインを
つまむようにして
半立体に表現する
95
目のラインの
折り目をつける
裏側で上向きに飛び出している部分を
下向きに折りおろす
左右の端で干渉する部分は
適当に済ませてよい
96
縮小
93
うしろ側へ折る
前
後
92
次図を参照して段折り
91
図に示す部分（眉のあたり）を
少しうしろ側へ折り込む
正方形の下端部
（あごになる）を
うしろ側へ折りかくす
90
だいたい図のような位置に
線がくるように
工程 86 の谷折り線の位置を
調整する
87
上端を
正方基本形の要領で
うしろ側へ折る
88
折り下げると同時に
裏側の層を連動させて出す
89
上端部と周辺を
拡大
つられて引っぱられてくる部分に関しては
この図のようにまとめる
正方形の中心の折り目はなるべく目立たない程度に

97
脇腹に曲線的な折りを施して
胴を絞りこんだのち
上半身全体をかるくうしろへ曲げる
縮小
全体を見る
98
99
一層めくってかぶせると同時に
工程73の状態の親指の形状を
復活させる
100
101
工程99と同様に
左手の親指をつくる
102
星印の点を中心に回転させ
手の角度を適正な位置に調整する
(最終完成形を想定しながら・・・)

「仏像」
「空閑如来」
本作「仏像」は、「空閑如来」を折りやすくなるように改作したものです。
「空閑如来」には立体的な工程・ぐらい折りによる微妙なバランス調整の工程が
数多く含まれており、折り図化が困難でした。しかし、いちど「仏像」の完成形を
とりだすことができれば、ここからの加工は実際の作業としてはそう難しいものではありません。
上の図を見比べながら、どのあたりが違うのかを考えてみてください。
自分なりの加工・工夫をしてみるのもよいでしょう。
104
完成
各部がゆるやかな曲面になるように
調整するとよい
103
図に示す折り線で手の角度を調整したのち
上半身と腕部分をベース（蓮台）に対して
垂直になるように立てる
蓮台部分を工程33のように立体に戻す
光背部分も工程39を参照して立体に戻す
さいごに腕部分と上半身を糊付けして固定する